

大阪は「まち」がほんまにおもしろい

津守今昔ものがたり

～津守神社から津守新田会所跡、西天下茶屋銀座商店街まで～



津守は元禄11年(1698)に金屋源兵衛と横井源左衛門が開拓しました。元禄15年(1702)、幕府に金1250両を納めて公認の所有地と認められ、津守新田と名付けました。しかし、宝永4年(1707)に大地震が発生し、この被害で経営難に陥り、新田経営を譲渡しました。その後も大洪水などで経営者は2回代わり、天明4年(1784)、炭屋善五郎が新田経営者となりました。この炭屋善五郎が現在の白山家の祖先です。

① 南海汐見橋線 津守駅

正式名称は南海高野線。汐見橋線は「愛称」で、汐見橋駅から岸里玉出駅の区間を指します。津守駅は大正2年(1913)に仮駅として設置、大正5年(1916)に一般駅に格上げされました。戦前は大日本紡績工場の最寄り駅で、多くの従業員を運んでいました。平成19年(2007)調査では、1日の乗降人員は600名程度で、利用者のほとんどが、西成高校在籍の生徒や教員です。

② 大日本紡績株式会社津守工場跡

明治42年(1909)操業の国内最大級の紡績工場です。建物は平屋建てで4000人以上が従事。工場内には社宅や小学校が付設、戦前の日本の綿布(木綿)輸出額世界一を支えましたが陸軍・海軍の軍用服生産を開始したため、空襲の標的になり、ほぼ全ての設備を焼失しました。残った設備で鉄工場として再操業しましたが昭和27年(1952)に操業中止、取り壊されました。その後、敷地一部を大阪市に売却、津守下水処理場と工場用水貯水池に。残りの敷地は昭和40年(1965)、6000人が収容可能な一大レジャー施設ニチボーリバーサイドプールが建設されましたが、それも昭和43年(1968)に閉鎖。その後、西成公園と西成高校が建設されました。

③ 三宝線(大阪市電阪堺線)

芦原橋～湊ノ濱間の路面電車を指します。昭和19年(1944)、大阪市が阪堺電鉄株式会社を買収して大阪市電気局(現:大阪市交通局)が運営しました。昭和20年(1945)の空襲で一部区間は廃止となりますが、戦後、大浜海水浴場や住之江競走場(現:住之江競艇場)の人気などで復興。しかし大阪湾の海洋汚染で大浜海水浴場が閉鎖すると、乗客は減少。さらに路面電車が走る府道29号の渋滞緩和のために市議会で廃線が決定。昭和43年(1968)、旅客営業終了しました。現在は市バスが運行されています。愛称の三宝線は市電の車庫が三宝(堺市)にあったことが由来とされています。

④ 津守南海高野線(鶴見橋)跨線橋

阪堺電鉄株式会社が、大正15年(1926)から昭和2年(1927)の間に建設したオーバースペースを指します。南海高野線(現:汐見橋線)と阪堺線(後の大阪市電阪堺線)が交差する地点です。廃線後は自動車専用の通行道路となっていますが、耐震性の問題等で大型車の通行ができません。跨線橋のある道路(新なにわ筋)の道路拡張工事の準備が行われており、工事の際には撤去される予定です。

⑤ 白山家(白山殖産株式会社)

淡路島にある白山神社の宮司の弟が、寛永14年(1637)に瓦町1丁目の炭問屋へ養子に入り、初代炭屋五郎兵衛と名乗ったのが白山家のはじまりです。3代炭屋五郎兵衛は、両替商として活躍、幕府から1万両の御用金を仰せつけられました。4代炭屋五郎兵衛は新田開発を請負った炭屋善五郎の兄で、医学を学んで白山大中と改名。白山殖産株式会社は大正10年(1921)設立の会社で、現在は不動産業を中心に営んでいます。

⑥ 津守下水処理場

産業活動の活発化に伴う「公共用水域の汚濁改善」の為に、中之島から難波周辺の下水を浄化する目的で、昭和6年(1931)着工、昭和15年(1940)通水。計画活性汚泥法を日本国内で初めて採用しました。昭和47年(1972)より、下水浄化によって発生する「汚泥」の「焼却」を開始し、汚泥の減量化に成功。平成19年(2007)には下水汚泥を処理する過程で発生する消化ガスを電力として再利用。年間4200トンの二酸化炭素排出を削減しています。



⑦ 津守神社

創建年不詳。津守新田の開発の際、工事の成就と五穀豊穡を祈願して創祀されたと伝えられています。当初は稲荷大明神小社として津守新田の最北端に奉斎されていましたが、その後、現在地(新田中央部)に社殿を造営。五所神社・五社大明神と呼ばれた後、明治4年(1871)に津守神社と改称されました。

⑧ 津守新田会所跡

地主の別邸で新田内の行政事務や年貢の取締り等を行っていた場所です。会所跡は津守小学校の校内北西角にあり「本校庭の位置に津守新田会所があり、新田地主・白山氏の庭園は向月庭といわれ、大坂の代表的名園であった」と記されています。向月庭は、春日出新田の八州軒と並ぶ浪華の二名園と呼ばれていました。

⑨ 十三間堀川(現:阪神高速道路15号堺線)

元禄11年(1698)、河村瑞賢によって開削。当初、木津川の流れを受けて北から南へ流れていましたが、宝永元年(1704)の大和川付け替えで大和川まで延長。流れ込む土砂の堆積と共に川床が上がり、川の流れが南から北へと変わりました。明治初期は堤防に松並木があり、農業用水路として利用され、大阪から楼船を浮かべ、住吉に遊びに行く航路にもなりました。昭和45年(1970)、阪神高速道路15号堺線と付近の道路の敷地となり、ほとんどが埋め立てられ、現在は住之江区内に一部残っています。

⑩ 株式会社共和

国内輪ゴム最大手の企業です。創業者:西島廣蔵氏が、銀行関係者から紙幣を束ねるバンドを作ってほしいと頼まれ、自転車のチューブを輪切りにしたものを考案したのが輪ゴムの原型と言われています。その後、研究改良を重ね大正6年(1917)、あめ色の輪形ゴムバンドの開発に世界で初めて成功。オーバンドと名付けられた製品は、現在でも国内シェアの4割を占める人気製品となっています。

⑪ 西天下茶屋銀座商店街

昭和21年(1946)設立。下町風情がたっぷり感じられる商店街です。

⑫ 喫茶フォーミラー

昭和62年(1987)に出来た喫茶店です。店名の意味は4つの鏡で4方向から自分自身を映し出すことで、反省や自己研鑽ができるという想いが込められています。人気店で雑誌などにも取り上げられています。

⑬ 村田食品店

70年以上営業されている駄菓子屋さんです。過去何度もTV・雑誌・新聞などに掲載されています。

⑭ 南海汐見橋線西天下茶屋駅

大正4年(1915)開業、昭和30年～40年代までは沿線にあった工場の勤務者で1日の乗降者数が4000人ほどありました。平成19年(2007)調査では1日の乗降者数は約350名まで減少しています。

【注意事項】 この地図は「大阪あそ歩」のまち歩き資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。

【お問い合わせ】 大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局 電話06-6282-5930(財団法人大阪観光コンベンション協会内)「大阪あそ歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。 <http://www.osaka-asobo.jp> または **大阪あそ歩** でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2～3km、2～3時間程度を基準として作成されています。